

会頭 2014 年新年特集号 挨拶

新年明けましておめでとうございます。

私は昨年 4 月に会頭職を拝命しましたが、昨年中は、当商工会議所のさまざまな活動に際し、皆様から多大なご支援とご協力を頂きました。改めて厚く御礼申し上げます。

昨年を日伯両国関係の観点から振り返ってみると、ブラジル日系社会は戦後移住 60 周年記念式典を開催し、周年事業を行った県人会も 10 県以上に上り、県の代表の方々や地域経済団体の来伯も多数に及びました。日伯両国の閣僚の往来も活発に行われ、9 月の G20 サミットにおいてジルマ大統領と安倍首相の首脳会談が実現しました。当商工会議所の会員数は史上最高の 360 社に達しました。このように、2013 年は政治・経済・社会の夫々の側面で、ブラジルと日本のパイプが一層太くなったことを実感した年でした。

ブラジル国内に目を向けると、思い起こされるのが、6 月に始まった大規模抗議デモです。発生当初は同時期に起きた中東のデモと同一視され、ブラジルの先行きを不安視する論調もありましたが、今振り返ってみると、多くが平和裏に行われた抗議活動はブラジルの民主主義の安定性を示すものであり、市民の力で今後の大きな社会改革への足掛かりを作ったポジティブな出来事と捉えることができます。

今年はどのような年になるでしょうか。ブラジルにとって 2014 年は大統領選挙の年であり、昨年世論が提起した教育や医療改革、インフラ投資といった重要な問題が真剣に議論されることを期待しています。また、いよいよ当地でサッカー・ワールドカップが開催され、日本や世界の目がこれまでも増してブラジルに集まります。日系伯進出企業にとっても活躍やアピールの場が広がる年になるでしょう。会議所としても、日本からの投資・技術・アイデアがブラジルの諸課題の解決に繋がるよう、日本企業の進出・当地での活動拡大を今まで以上に後押ししていく所存です。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍を祈念して、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。